

Clinical Cloud by MEDIPAL には各領域を牽引するオピニオンリーダーによる良質な医療情報を掲載しています。

Clinical Cloud かわらばん

最新動画
情報

登録無料



第4号

令和元年7月1日

発行元 株式会社Doctorbook
東京都千代田区内神田一丁目14番10号

vol.
004

特集

心房細動

心房細動に対する カテーテルアブレーション

最近のカテーテルアブレーション治療



POINT 1

拡大肺静脈隔離術と
BOX隔離

POINT 2

カテーテルアブレーション
治療成績とデバイスの違い

POINT 3

心房細動の発生源とは



慶應義塾大学病院
循環器内科 准教授
高月 誠司 先生

高月 誠司 先生のご紹介

- 専門分野: 不整脈、カテーテルアブレーション、心房細動
- 1990年 慶應義塾大学医学部 卒業。1994年 慶應義塾大学医学部循環器内科助手、1998年同大学救急医学助手を経て、2005年にはパリ第7大学ラボワジュール病院へ留学。帰国後、2007年慶應義塾大学医学部心血管症学講座助手、2008年同講師、2011年同大学循環器内科 講師を経て現職。循環器専門医、総合内科専門医、不整脈専門医。

慶應義塾大学病院 高月 誠司先生に現在のAFに対するカテーテルアブレーションで世界的にも主流である拡大肺静脈隔離術、慶應義塾大学病院で工夫されているBOX隔離についてご解説いただきました。また、発作性心房細動、持続性心房細動の臨床所見の比較、各々の疾患のカテーテルアブレーションでの治療成績、使用デバイスの違いについてもお話しいただきました。

一般的に心房細動(atrial fibrillation: AF)に対する治療法は抗凝固薬等による薬物治療、カテーテルアブレーション等による非薬物治療の二種類に分けられます。AFに対するカテーテルアブレーションは約20年前に始まりました。当初は手術時間が長く成功率が低かったですが、カテーテル技術や機器の進歩に伴い治療成績は大きく向上し、合併症の頻度も減少しました。従来、発作性心房細動のみを施行対象としていましたが、近年は持続性心房細動や慢性心房細動に対しても行われていきます。特にAFによる自覚症状が強い患者、AFによって心不全や洞不全を起こすような患者ではAFの治療によるメリットが大きいとのことです。AFは左心房の肺静脈からの異常な電気の発生が原因の一つと考えられています。肺静脈の心電図波形を観察することで治療効果を確認できるとのことです。

心房細動

腎機能低下例の多い高齢者の抗凝固療法を考えるNo.1



高齢社会における 抗凝固療法の意義とは？



- POINT 1 死亡原因や寝たきり要因となる「心原性脳塞栓症」の増加
- POINT 2 心房細動の早期スクリーニングと抗凝固療法
- POINT 3 高齢者に対する抗凝固療法では出血リスクと腎機能に注意

心房細動(AF)は加齢によって発症リスクが上昇することから、日本ではAF患者数が増加しています。これに伴い、AFに起因する心原性脳塞栓症の発症率も上昇しており、高齢AF患者の脳卒中をいかに予防するかが、臨床現場の大きな課題となっています。高齢になるにつれ、腎機能が低下を合併する例も増える傾向にあり、特に高齢・腎機能低下例においては出血リスクにも十分配慮した抗凝固療法が必要となります。日常臨床で直面する様々なリスクを有する高齢AF患者に対して、非ビタミンK

拮抗経口抗凝固薬、NOACをいかに安全かつ適正に使用するのかが、議論が続いています。今回の動画では、石井先生に、血栓塞栓症と出血リスクの双方が高い、高齢・腎機能低下患者の管理や抗凝固療法のポイントについてご解説いただけます。

名古屋大学大学院医学系研究科
循環器内科学 講師
石井 秀樹 先生

●専門分野: 虚血性心疾患、冠動脈インターベンション

心房細動

高齢AFにおける抗凝固療法とリバーロキサバンのデータご紹介



高齢NVAF*患者における 抗凝固療法の意義と注意点



*NVAF: 非弁頸症性心房細動

- POINT 1 高齢AF患者では、血栓塞栓症と出血リスクが高く、リスクベネフィットを鑑みた抗凝固療法が必要
- POINT 2 NOACは臨床試験において、ワルファリンと同等またはそれ以上の有効性と安全性が確認されている
- POINT 3 リバーロキサバンは、臨床試験データだけでなく、実臨床とのギャップを考慮した様々な背景を持つ患者層を対象とした豊富なエビデンスをもって、安全性と有効性を確認した薬剤である

高齢は心房細動(AF)の発症リスクであり、高齢者の増加とともに、高齢AF患者が増えており、今後、高齢者に対する適切な抗凝固療法がますます求められることになります。今回の動画では、井上先生に、リバーロキサバンを中心とした高齢AF患者に対する抗凝固療法のポイント、また有効性・安全性を判断する

ための臨床試験や実臨床データの意義についてご解説いただけます。

桜橋渡辺病院 心臓血管センター
循環器内科部長
井上 耕一 先生

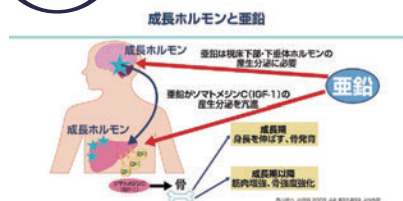
●専門分野: 難治性不整脈治療、管理、カテーテルアブレーション、デバイス植え込み手術

注目動画 1

PR-XARF-P0514-10-06



小児科診療における亜鉛の重要性



- PART 1 亜鉛欠乏症の診断基準
- PART 2 小児の亜鉛不足と皮膚炎
- PART 3 亜鉛不足と発育不全

小児の栄養不足は稀な話ではなく、亜鉛不足に伴う症状は皮膚炎、脱毛症、発育障害、貧血および味覚障害など多岐にわたります。今回、亜鉛不足の小児によくみられる皮膚炎、発育不全と亜鉛の関連について、ご解説いただきました。



帝京平成大学 健康メディカル学部
健康栄養学科 教授
児玉 浩子 先生

児玉 浩子 先生のご紹介

- 研究分野: 小児栄養・代謝・内分泌、特に微量元素の代謝・栄養
- ご紹介: 大阪大学医学部卒業。帝京大学医学部小児科教授を経て、平成23年より現職。小児科専門医、小児神経科専門医、内分泌代謝科(小児科)専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科指導医、日本臨床栄養学会認定臨床栄養指導医、日本臨床栄養学会理事、日本分析センター理事、日本学術会議選考委員、日本小児栄養研究会理事など多数の学会役員などを務められている。

注目動画 2